

# 第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0902003

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 生産体制の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	未来につなぐ森づくり推進事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町森林組合	関係課	#N/A	
事業指標	無立木地等での造林施策の推進		#N/A	
事業目標	年間造林面積 371ha	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	2	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名	1 ⇒ 雄武町森林整備事業計画	

121	全体計画 事業内容	平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容	
計 画 内 容	・人工造林 371ha	人工造林 60ha	人工造林 70ha	人工造林 101ha	人工造林 70ha	人工造林 70ha	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	53,736	9,516	10,140	14,080	10,000	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	33,020	5,856	6,200	8,664	6,150	
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	20,716	3,660	3,940	5,416	3,850		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	41,830	8,843	8,724	10,390	7,871	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	25,743	5,442	5,369	6,394	4,844	
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	16,087	3,401	3,355	3,996	3,027		
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) ○21世紀北の森づくり 推進事業補助金	【評価・実績】	(実施内容等) 人工造林 59.21ha  ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 人工造林 58.11ha  ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 人工造林 45.29ha  ※前年度評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 人工造林 42.08ha  ※前年度評価結果 B-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値	人工造林 60ha	人工造林 70ha	人工造林 101ha	人工造林 70ha	人工造林 70ha
	年度達成率	93%	86%	74%	79%	60%	
	全体達成率	16%	33%	52%	67%	78%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	

事業名	未来につなぐ森づくり推進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	石井 弘道
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	福田 泰弘

平成24年度実施  
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	森林所有者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	人工造林 70ha		
【抱える課題やニーズは】	森林整備による地球温暖化への積極的な貢献や相次ぐ災害の発生による国土保全機能の向上		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させる造林の実施		① 人工造林の面積 /人工造林の実績面積	目標年度	平成24年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	北海道らしい豊かな「ふるさとの山」の造成の推進			目標値	70 ha
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①補助金の交付	森林環境保全整備事業実施要領に基づき補助対象とされた造林事業のうち、森林組合に委託して行った事業に対して補助。町が造林事業費の26%を助成した場合、道から町に造林事業費の16%が補填される。	実績値	42.08 ha	
			達成度	60.1 %	
			②	目標年度	年度
			目標値		
			実績値		
			達成度	#DIV/0! %	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	森林の公益的機能の高度発揮と木材資源の循環のため、北海道らしい豊かな山づくりを推進する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	当該事業を実施しない場合、森林所有者の森林施業に対する意欲の低下を招き、未立木地や伐採跡地の解消に影響を及ぼす。
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		民有林の森林整備が促進され、地域林業の振興が図られるとともに、森林の有する様々な機能の高度発揮に寄与した。しかし、森林所有者の理解を得られず、実施面積が目標に達しなかったことから、今後、更に目標達成に向けた森林所有者への働きかけが必要である。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		この事業の適用となる町の負担割合は、北海道が制定した「未来につなぐ森づくり推進事業実施要領」で定められており、町が道の補助を受けるためには制度の基準を満たす必要があるため、必要最小限の助成を行うように努めている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

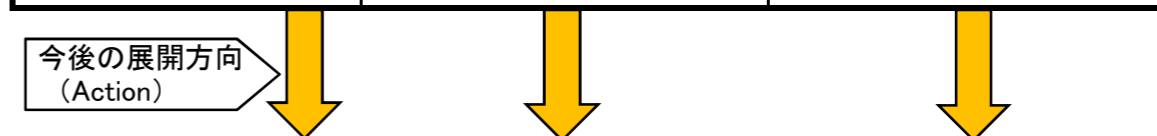
公平	判断の理由		受益者負担の軽減を図るために、北海道・町が要領に則ってそれぞれ負担している。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
森林所有者の負担軽減を図り、森林施業を促進するものであり、且つ、公益的機能を有する森林を育成する事業であることから、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
造林施業が推進されることにより、本町の林業生産力の向上に繋がるとともに、環境の保全が図られるので、引き続き最優先して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

※展開方向の区分  
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
 終了  休止  廃止